

第2期広島市立大学塾活動報告【12月19日】

国際学部国際学科1年

齊藤 秀太

今日は2月の終わりから3月の頭にかけて行われる市大塾の沖縄研修に向けて、沖縄の歴史を主に勉強しました。第二次世界大戦時の沖縄戦を中心に、沖縄が琉球王国だった頃から、今に至るまでを見ていき、沖縄が日本の中で異質な立ち位置にあるということがわかりました。1872年に琉球藩が設置されてから、1879年に沖縄県が設置され、日清戦争を挟んで、太平洋戦争で沖縄戦が起こり、1945年から1972年5月15日まではアメリカ領であり、未だに米軍基地が多く残っているという特殊な土地柄で、本土にいる日本人とはまた別の感覚や感情、太平洋戦争に対しての認識を持っているということを知りました。特に27年間アメリカ合衆国による統治時代があったことは知っていても、よく考えることはあまりないと気がつかされる良い機会でした。

そして、一番驚かされたのが、日本国とアメリカ合衆国との間の相互協力及び安全保障条約（日米安保条約）が思っていた以上に短い内容であったということです。内容はA4のプリント一枚でこれがニュースで度々聞く、日米安保で未だに影響を与えている文書なのかと思い、日米地位協定で細かいことは決められているものの、少し不思議な気がしました。また、もう一つ驚かされたのが、アメリカ統治時代のアメリカ人から沖縄の人たちへの差別でした。一例として、「沖縄人女性が、アメリカ将校から犯され、それを知った将校の妻が銃で撃ち殺し、穴に埋めたという事件があったが一切問題にならなかった」という事実があったそうで、知らない悲しい沖縄があることを今まで知りませんでした。

今日の市大塾は特殊な立ち位置にある沖縄について、もっと調べて沖縄に行こうと思えるような内容でした。